
まどか マギカの世界に魔神が転生しました

iseizin

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

まどか マギカの世界に魔神が転生しました

【Nコード】

N2682U

【作者名】

iseizinin

【あらすじ】

まどか マギカの世界にあの方が転生しました。

そして、その果てに彼は何を思い出し、どう生きるかを決心する。
そこまでのお話

注意：この話はあくまでも短編です。一応のプロットはありますが、詳細に考えているわけではないので、現時点で連載するつもりはありません。

もしも連載版を読みたいという方が複数いらっしゃった場合は遅め

の更新ですが、頑張りたいと思います。

（前書き）

マブラヴ書かずに書いてごめんなさい。

結構駆け足な展開です。

細かいことは抜きにして、重要そうな部分を抜き出したつもりです。

それでも、そこそこな分量になった気がします。

見滝原町に少年、灯 ルルーシュがいた。

端正な顔たちをした少年であり、明晰な頭脳を持った少年である。
反面、運動神経自体は平均程度なのだが、体力が無いという欠点があるがご愛嬌だろう。

彼は不思議な夢を見ていた。

自分と同じ顔をした人間が仮面を被った何者かに殺される夢をよく見る。

少年はその意味を『まだ』知らない。

「夢……相変わらず悪夢のはずなのに、何故満足感を感じるんだ？」

それはとても不思議な感覚だ。

とはいえ、夢にそこまで意識を割くことはせずに、少年は登校の準備を開始する。

頼れる親類を失い、一人で生活をするルルーシュだが保護者は居る。
近所の幼馴染とその家族。

以前から『一緒に住まないか？』と聞かれているが、それについては拒否していた。

何故かは自覚していないが、感覚的なものだということは感じていた。

（それでも食卓を相席する時は嬉しいんだがな）

そんなことを考えながら、同時に今日の授業の予定も同時に思い出しながら、ルルーシュは家を出た。

鹿目 まどか。

ルルーシュの幼馴染であり、一緒に住まないかと誘われている家庭の長女である。

心優しく友達思いの少女であり、自分にはないその優しさがとても心地好い。

そう感じている少女である。

彼女は親友である美樹 さやか、志筑 仁美と共にいた。

「ルル君！」

「おはよう。まどか」

「あたしたちは？」

「おはよう。さやか、仁美」

何気ない日常。

ルルーシュは何故かこの日常がとても尊いものだと感じる。

級友たちの言動と比較しても自分のそれはとても大きいものだと感じる位にだ。

「まどか。そのリボン似合ってるよ」

「ほ、ホント！？」

「ああ」

本心を述べ、この何気ない日常を謳歌する。

これはルルーシュにとって何よりも大事なものだ。

転校生がやってきた。

名前は暁美 ほむら。

長い黒髪が映える容姿端麗な少女であり、学業も優秀であり、運動神経も抜群……体力バカとはルルーシュの評価だ。

……決して、体育の持久走で醜態を晒したために、より比較されたことを根に持っているわけではない。

まして、心臓の病気というのは絶対に嘘だ、とルルーシュは思っている。

だが、どうもまどかに対しては妙な態度を取り、ルルーシュに対しても睨みつけるような態度を取っていた。

「何か心当たりないの？」

「そうだよ。ホントは3人が幼馴染なのに忘れてた、とか」

「その手のことも考えてみたが無いな。俺とまどか、共通の友人で転校した人間を思い浮かべたが、彼女の外見に心当たりがない」

「そこで『可愛い』や『綺麗』なんて単語が出てこないのがルルーシュ君らしいですわ」

何故か仁美にバカにされているとルルーシュは感じた。

「あのね」

まどかの話を要約すると、今朝の夢でまどかは転入生の姿を見たとのことだ。

その話でまどかは会ったことがあるのではないかという話になり、ルルーシュはまどかの近くにいたから怪しまれたのではないかという結論に達した。

「何故、俺がまどかの近くにいるのが怪しまれるんだ？」

「あんたは綺麗な顔してるけど、男だからよ」

「いい加減、その手の言い方はよせ。男に綺麗な褒め言葉にはならないと言っているだろ」

月に1、2度はその手の話題が出てくるので、ルルーシュはとても嫌そうな表情を作った。

そのまま仁美は習い事のため別れ、残った3人はCDショップに向かった。

そこでまどかがCDショップを抜け出し、立ち入り禁止区域に脚を運んでいた。

「何をしてるんだ、まどかは」

「ほら。まどか見つけないと」

「……何時の間にここに来た」

「あんたが遅いんだ」

ルルーシュが憮然としたのは言うまでもない。

まどかはすぐに見つかった。

妙な生物を抱えているようだが、問題は

「転校生か？」

「どいて！」

さやかが消火器を使用し、ほむらの視界を封じた。
その間に3人は逃げた。

「なんなの！？ あの娘……コスプレで通り魔かよ！？」
「わかんないけど、この子を助けないと」

呟いた瞬間

世界は一変した。

「なんだ！？」
「これは！？」

それは使い魔の結界だったと知ったのは後のこと。
空気が震えたのをルルーシュは感じた。

「く」

まどかとさやかを突き飛ばした。
そして、そのままルルーシュは吹き飛ばされ、意識が暗闇に飲まれた。

そのすぐ後に巴 マミが現れ、ほむらも姿を現した。

そして、使い魔だったはずの存在が魔女となって現れた。

「なぜ？」

それを呟いたのは誰だったのか

ルルーシュが今、見ているのは現実なのか。
それは分らない。

だが、確かに今、毎日見るあの夢の始まりから終わりを全て見ていた。

あの夢は終わりの部分だったのだとルルーシュは悟った。

『王の力はお前を孤独にする。その覚悟があるのなら』
『いいだろう。結ぶぞ！ その契約！』

あの日に結んだ契約。

共犯者、永遠を生きる魔女『C・C』との出会い。

あれが全ての始まりだった。

あの日から俺は『生きていた』。

皮肉を言い合ったり、感謝したりされたりした共犯者
結局、一度しか名前を言わなかった。

俺の最後の時も祈りを捧げていたはずの魔女。

そして、道を違えたはずの親友ともう一度手を結び、ある計画を実
行した。

「なあ、スザク。願いとはギアスに似ていないか」
「え？」

「自分の力だけでは叶わないことを誰かに求める」

「願い、か」

「そう。俺は人々を願いという名のギアスにかける。世界の明日の
ために」

結局、自身を振り回した『力』を肯定したルルーシュ。
スザクはその言葉を聞いて

「なら、僕の願いを聞いてくれ」

「なんだ？」

「もしも……君が生き残ったのなら、君は『生きる』」

それを聞いて、ルルーシュは笑う。

「それはないだろ。俺が死んで始めて」

「そうだね。だけど、君は言った。『奇跡を起こす者』だと」

それはルルーシュが父親を手にかけて時にいった言葉だ。

そして、その通りにルルーシュは奇跡を起こした。

「こういう形でもいい。もしも君が生き残ったのなら『生きてくれ』」

そして、今度は君が幸せになれるように」

「難しいことをいう」

ルルーシュは呆れるように言うが

（それもそうか）

スザクに生きろというギアスをかけた。

死にたがりの友人を無理矢理生かしてしまった。

ならば、自分もそれをしなくてはならない。

「撃つていいのは撃たれる覚悟のあるヤツだけだ」

結局、この言葉は自分に返ってきた。
ただ、それだけのこと。

今回は生きる意志を与えたのだから、それが返ってきたただだ。
そういうことなのだろう。

（それが……おまえの願いか、スザク）

目が覚めた。

身体は動く。

立ち上がる。

思い出した。

それと同時に何かが身体の中に駆け巡った。

時間は全然経過していなかった。

「俺の質問に答えてもらおうか、異形の者」

まどかが、ほむらが、さやかが、マミが、キュウベえまでが俺を見る。

ルルーシュは知る由もないが、魔女の使い魔は人間を捕食し魔女へと成長していた。

まどかとさやか、ルルーシュを確実に守るために一時的にだが、2人の魔法少女が手を組んだという内幕もあるのだが、それは割愛する。

「力で人を傷つけるのは正しいのか？」

ルルーシュは一步一步近付く。

「それ以上、近付!？」

マミの悲鳴が響く。

ルルーシュの周りに円を描くように何かが蠢いているが、ルルーシュを傷つけることはなかった。

間違いなく害を為す何かなはずなのに。

「力で人を守ることは？ 力の意味を考えたことがあるのだろうか？」

まだ近付く。

目の前には魔女しかいない。

全員が動く事が出来ず。

そして、全員が気付いた。

この空間が何か変わった……そんな感覚を。

「力に正しさを求めるのは意味のないことなのか？」

『ゲラゲラゲラ!』

嘲笑された。

まともな会話ではないだろうが、ルルーシュにはそれで十分。

そして、ルルーシュはそれらの問いに答えを求めたいと願った。

目の前の異形に目を向けた。

自身の『力』を再び行使するために。

「ならば教えよう。これが俺の『力』だ」

片手を水平に伸ばし

「ルルーシュ」

名乗るのはこの世界の名前ではない。

この『力』を使う以上、俺はこの名前を名乗らなくてはならない。
願いを受け継いだ者として

「ヴィ・ブリタニアが」

最初の名にして、最も忌むべき名。

同時に最後の名でもある。

それを名乗る。

「命じる」

始めて使った時のように。

傲然に。

『王』の力を行使する。

両目に赤い鳥のような紋章を浮かべて

「異形の者よ！ 死ね！」

魔女は動かなくなり、そしてそのまま自身に攻撃をしかけて息絶えた。

余りにも衝撃的な光景で全員が言葉を失った。

（何かが足りないと思っていた。幸福と不幸二つが交じり合った現況。

現実と夢の相違点。どちらかしか認識できず、足りないものを求め続けた。

今、はつきりと重なった。
思い出した自分自身。C・Cから与えられた『力』。そして、スザクの願い)

足りないものは全て埋まった。

後は求めるものを見出して、それを築く。

魔女と友……何よりも自分自身のために

「だから」

ルルーシュは目を開け、前を見据えた。

魔神はここに再臨した。

予告編(連載する場合の草案)

「私はキュウベえと『契約』して魔法少女になったの」

(契約だと? 内容が耳障りに良過ぎる……この生物には警戒が必要か)

マミとの会話からキュウベえへの疑惑が生まれ

「ふーん……それが本当だとして、君は何をしたんだい?」

「どういうことだ?」

「君が少女だったら、間違いなく歴代最強の魔法少女になれるだけの才能があるよ」

「ルルーシュって、女の子みたいだしなっちゃえば」

「笑えないぞ」

(今の話が本当なら才能は別の何かに置き換わるんじゃないか?)

会話から糸口を掴むべく、ルルーシュは関わる事を決意する。

「あなたはどうするつもりなの」

「あの内容ではキュウベえを信頼も信用もできん。会話や状況から真実を見極める必要がある」

「そう」

（この反応……マミ本人が知らないことを知っているな）

ほむらに注目することを決め

（ソウルジェムとグリーンフィードの不可解な点、魔女とは何か？

願いを叶えた魔法少女が戦い続ける理由……

そういうば、ほむらは心臓の病気だったというが……不可解な事象は全て解く必要があるか）

そして、ルルーシュは最悪の予想に辿りつく。

「ルル君は……ほむらちゃんと一緒に戦うの？」

「何故かしら？」

「考えたいことがある。そのためにはあいつと一緒にの方が都合がいい」

「そ、そうなんだ」

「だけど、信じてほしい。俺は絶対にまどかを裏切るようなことはない」

ルルーシュは戦いを決意する。

妹であるナナリーに似て優しく、決定的に違う少女を守るために。

「ルルーシュくんっていつもああなの？」

「傍から見ると、普通にカップルなんですよね」

「そう。試し打ちの的が見つかって嬉しいわ」

「転校生？　なんでルルーシュを銃で狙ってんの！？」

さやかとマミは何となくだが、ほむらはまどかの味方なのだと直感した。

ルルーシュは敵なのかもしれないが。

「か、上条さんとルルーシュくんが2人で会話している姿を見ると、胸がドキドキするんです！」

「仁美。ちよつと病院行こうか」

「そ、それで2人とおしゃべりしてる私がそこにいるんですの」

「「ちよつと路地裏まで行こうか」」

腐の才能に目覚めてしまった親友がいた。

「てめえがイレギュラーか！？」

「なるほど。キュウベえからすれば俺はそこまで邪魔か」

新たな魔法少女との出会い

「聞かなかったじゃないか」

「わたしたちを騙したのか」

本性を表すキュウベえ

いや、始めからキュウベえはキュウベえだった。

だが、それに気付かなかっただけだとルルーシュは思った。

（俺がここに来たのは偶然か必然か……必然だとしたらあれがあるのかもしれない）

「最後の賭けというやつだ。奇跡が起きることに賭けてくれ」
「起きなかったらどうするの？」
「できるさ」

ルルーシュは奇跡を起こせるのか？

（後書き）

とりあえず、ルルーシュが復活するまでを書きました。
詰め込みすぎだったかとも思いますが、いかがでしょうか。

ちよつと言葉遣いとかがうる覚えな部分もあるので、違和感がある
やもしれませんがご了承ください。

ここから先はあらずじ通りです。

連載するなら加筆する可能性が大です。

では、ここから下はキャラ設定です。

灯 ルルーシュ

本作主人公。ギアスの主人公で転生させちゃいました。

目的は本分通り。ギアスも復活してます。

ギアス世界と違って、素性を隠す必要がないため、『天才児』扱い
されてます。

ただし、体力は無い。

細かく書いてませんが、魔女や魔法少女の攻撃は無効化する仕様と
なってます。

イメージ的にはリリなのA M Fで属性攻撃までも無効化する。

ただし、二次災害はしつかりとダメージ受ける。

そのため、天敵は大規模攻撃する相手や魔法以外の攻撃方法を持つ
相手

ちなみに『灯』はランペルージの意識から一文字引っ張ってきまし
た。

鹿目 まどか

ルルーシュの幼馴染で『ルル君』と呼んでいます。

無論のこと、ルルーシュのことが好き。それ以外は原作通り。ルルもいい感じに想ってたりします。

ちなみにまどかママとルルは結託して、いつでも会社乗っ取りできる状態

そのことをまどかは知らない。

暁美 ほむら

ほぼ原作通り。連載続けるなら、ルルの魔法パートのパートナー予定。

ルルの頭脳と人身掌握術を大いに活用し、失敗しても次回以降に生かそうと思っている。

予定では三角関係を予定していたりするがどうなるか。

美樹 さやか

原作通り。まどかとルルのことをちよっぴり羨む。

ルルを紹介するため、ほむらとの関係も多少改善するかも。

ただ、精神力が問題で気をつけないとバッドエンドに直行するのは変わらない。

無論、作者は生存を希望してます。

巴 マミ

原作通り。マミることは多分ない。

というか、ルルが介入するため、少しずつキュウベえに不審感を持つかも。

ただし、さやかと同じくメンタルが問題なため、別のバッドエンドに直行の可能性を残す。

佐倉 杏子

原作通り。ただ、ルルを襲う役として宛がわれるのは確定。

こっちはメンタルに問題は無いが、運がない。

別の意味で回避方法を見つける必要があるかも。

志筑 仁美

多分、ギャグ担当になるかも。

ルルと上条くんを見て、妄想してしまう腐女子。
どうなるかは作者もわからない。

キュウベえ

ギアスと因果もあり、ルルに目をつける。

それ以外は原作通り。

ルルはこいつとの戦いが主になると思われる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2682u/>

まどか マギカの世界に魔神が転生しました

2011年10月8日01時25分発行